

循環器内科

【診療の内容】

心臓や全身の循環に関わる疾患の診断と治療を担当する診療科です。主に急性期のカテーテル治療や医療機器の体内への植込み手術などの入院治療を行っており、その後の長期管理については、県内のクリニックなどの医療機関と共同で行うようにしています。診療の具体的内容は以下の通りです。

- ① 虚血性心臓病（心筋梗塞や狭心症）
- ② 心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症などの弁疾患）
- ③ 心筋疾患（拡張型心筋症や肥大型心筋症）
- ④ 高血圧（特に難治性高血圧、腎動脈狭窄による腎血管性高血圧などの2次性高血圧）
- ⑤ 心不全（どのような心臓病でも悪化すると心臓の機能が障害され心不全になります）
- ⑥ 大動脈疾患（大動脈瘤や高安病など）
- ⑦ 肺動脈疾患（肺高血圧症など）
- ⑧ 閉塞性動脈硬化症（足の循環障害）
- ⑨ 頸動脈や鎖骨下動脈疾患（脳循環障害の原因）
- ⑩ 脂質異常症（心筋梗塞や脳卒中の原因となる高コレステロール血症など）
- ⑪ 頻脈性不整脈（心房細動だけでなく、あらゆる頻脈性不整脈）
- ⑫ 徐脈性不整脈（洞不全症候群や房室ブロックなど）

<外来診療担当表>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
一診	土肥 <small>(初診紹介)</small> 岩井 <small>(午後)</small>	中井	鈴木	阪井	中井 <small>(午前)</small>
四診	藤本 不整脈専門医		藤木	岩井	安
五診 <small>(午前・初診)</small>	岡山		服部	橋本	花房/松林
六診	安 <small>(午前)</small>	藤木 <small>(午前)</small>			

病気の話①

遅い脈を治療する「ペースメーカー」

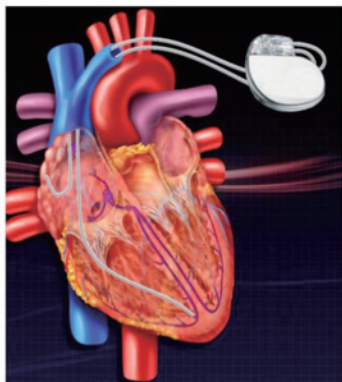
心臓には、お母さんのおなかの中にいる胎児のときから、一生を終えるときまでずっと電気を発生するペースメーカーの役割をしている部分があり、その部位を「洞結節（どうけっせつ）」とよんでいます。その洞結節から心臓内に電気が流れる経路があり、これを刺激伝導系とよんでいます。洞結節や刺激伝導系の経路が、加齢によって障害が

出てきた場合、心臓の鼓動の回数が極端に少なくなる「高度

徐脈（遅すぎる脈）」が生じて、意識を失うことがあります。意識を失わなくても、心臓がうまく打つことができなくなるために心不全になってくることもあります。そのような病態を治してしまえる薬がないため、ペースメーカーという機械を体内に植込む必要がでてきます。

ペースメーカーは、4 cm×6 cm ほどの楕円の本体とそれにつながるリード線でできています。本体は通常左の鎖骨の下の皮下脂肪と筋肉の間に植込みます。ペースメーカーは患者さんのすべての心拍と心拍の間の時間を計測し、患者さんの心拍が急に止まったときに小さな電気を発生させて心臓を動かしてくれる機械です。

西和医療センターでは最新のリードのないタイプ（女性の小指の第1関節の先ほどの小さなペースメーカー）の植込み手術も行っています。どのペースメーカーが適切かは主治医に相談してください。



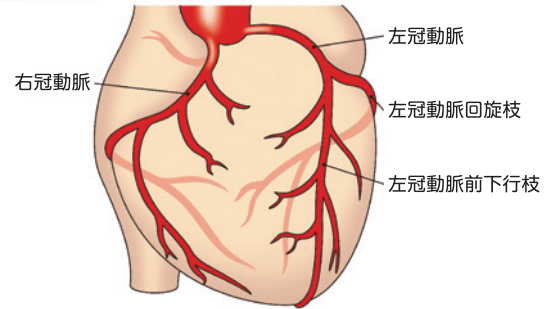
病気の話②

心筋シンチグラフィ

冠動脈疾患（狭心症や心筋梗塞など）とは

●どんな病気ですか？

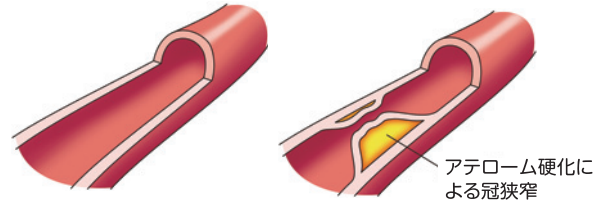
高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙などの生活習慣病により、心臓の筋肉（心筋）を養っている血管（冠動脈）に動脈硬化が起こり、血管が細くなり、血液が流れにくくなる病気です。



●どんな症状になりますか？

典型的には、歩いたり坂道を登ったりしたときに左前胸部が締め付けられるように痛くなります。心不全になっていると息切れを感じることもあります。安静でこれらの症状は治まります。

安静で治まらないときや安静時の突然の胸痛は急性心筋梗塞の可能性があります。その他に大動脈解離や肺塞栓症などの可能性もあります。症状だけでは診断できませんので、循環器内科外来を受診する必要があります。



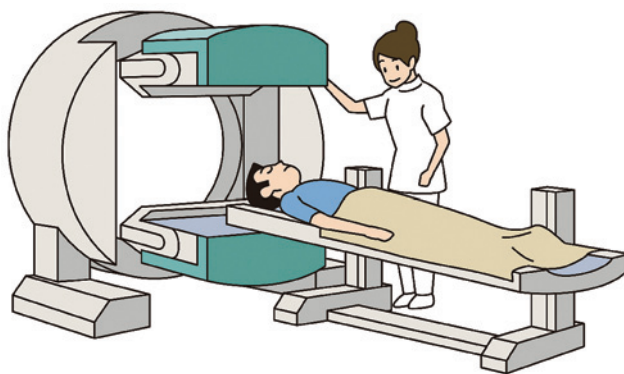
●どんな治療がありますか？

カテーテル（細長い柔らかいプラスチックの筒）を手首の血管から入れ心臓まで持っていき、細くなった心臓の筋肉（心筋）を養っている血管（冠動脈）を映し出し、風船で広げ、ステント（金属の管）を置く経皮的冠動脈形成術があります。また、重症の冠動脈疾患では全身麻酔をかけ、細くなった冠動脈の先にバイパス血管をつなぐ手術もあります。

心筋シンチグラフィとは

●なにがわかるのですか？

主に、心臓の筋肉（心筋）に血液が流れているかどうか分かります。



●この検査の良いところは？

造影剤を使う検査は腎臓が悪い患者さんには副作用のため受けてもらうことはできませんが、心筋シンチグラフィは腎臓が悪い患者さんにも安心して受けてもらうことができます。

心筋を養っている血管（冠動脈）が細く見えていても、実際は血液が十分に流れているために手術が必要でない患者さんがいらっしゃいます。心筋シンチグラフィを受けてもらうことで、心臓カテーテル検査を受けなくても済む場合があります。

●どうやって調べるのですか？

自転車こぎやお薬で、少し、心臓に負担をかけた状態で、微量の放射線を出すラジオアイソトープ（RI）というお薬を注射します。RIは心臓に集まりますので、心臓から出る放射線を特別なカメラで撮影します。心臓の筋肉（心筋）に血液が流れているかどうか分かります。

●放射線の影響はありませんか？

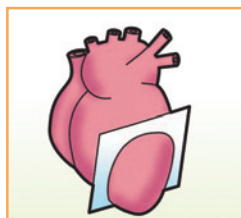
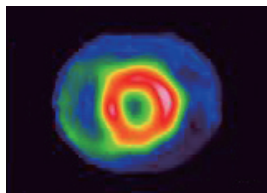
心筋シンチグラフィでは放射線を出すラジオアイソトープ（RI）を使いますが、ごく微量で、人体に与える影響はほとんどありません。

●当院での例

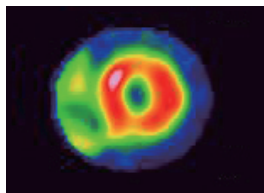
左は正常例です。心臓の輪切りですので、血液が流れている心臓の筋肉（心筋）がリング状に見えています。

右は心筋梗塞例です。欠けている部分が血液の流れが悪くなっている心筋です。

<正常例>



<心筋梗塞例>



赤く見えているドーナツ状の心筋。
時計で言うと6時の部位に血流低下を認める所見。

**最新機材を使って、専門医が検査・治療にあたります。
お気軽にご相談ください。**